

## 県外派遣報告書

審判員名	竹澤 友美	所属	ミニ
大会名	平成26年度 国民体育大会関東ブロック大会		
期間	平成26年8月23日(土)～平成26年8月24日(日)		
会場	栃木県大田原市栃木県立県北体育館		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
8月22日(金)	審判会議	大田原市生涯学習センター	
8月23日(土)	一回戦・講義	大田原市栃木県立県北体育館	
8月24日(日)	準決勝・決勝	大田原市栃木県立県北体育館	
審判会議・講義内容			
<p>清水幹治氏</p> <p>①南関東IHを振り返って～それぞれの審判員から～</p> <p>②今大会の位置づけ～関東・東京ブロック A級研修会～ 次のステップへの何かをつかんで欲しい</p> <p>③3パーソンへの対応～難しさをどのように考えているか～ 3パーソン研修会ではなくA級研修である 3パーソンのポイント・・・3人の意思疎通、アイコンタクト L=ゴール下のPLAYに集中する、Lでなければ判定できないものを逃さない T=エリア1・2・3の見方やCとのコンビネーション、ペイントへはLを1人にしない C=自分サイドのPLAY(オフボール(スクリーン・リバウンド、サイドチェンジのパス))に全責任を持つ</p> <p>④今大会に望むにあたって～大会の意味、チームのねらい～ 県の代表である選手、役員にそれぞれの想いがある。順位によるポイントで来年度の予算にもかかってくる</p>			
<p>佐藤誠氏</p> <p>南関東IH女子決勝に地元の昭和学院が勝ち上がったことで、IHに関わった役員の多くが男子会場から移動し女子会場に応援に駆けつけた。地元応援ムードの中、結果として昭和学院は負けてしまったが、試合が終わった時には会場の皆さんから自然に大きな拍手が起こった。これは決勝を担当された3人の審判員の方々が、南関東IH最後の試合という地元の想いもすべてわかった上で、自分の軸をブレさせない素晴らしい「審判力」により会場中がHAPPYな試合になったからである。みなさんにも今の審判力を発揮して大会に挑んでいただきたい。</p>			
実技			
担当試合	期 日	平成26年8月23日(土)	少年女子
	対戦カード	山梨県 VS 茨城県	副審
	相手審判	渡邊諭 氏 (栃木県)	
ミーティング内容		主任	稲葉威 氏 (茨城県)
<p>目の前の現象を1試合こぼさず、積極的に判定し続けること。前半と後半で試合の様相が変わり、審判が出ていかななくてはいけない状況での関わり方。課題の解決方法を具体的に解決していくこと。</p>			

講義内容

藤垣庸二氏(日本協会)

- ①関東の活動環境…関東のゲームを他ブロックは見に来る、吹きに来る。AA審査で使用されるゲームが行われている。FIBA、TOPレフリーがいる→日本の中で最高の環境である。
  - ②AAIになるために…そのために技術として何を兼ねそろえるか
    - 重点目標、審判指導評価ハンドブックからAAIに求められているもの、何が大切でどんな観点からか。
    - オフコートでの振舞い言動はどうあるべきか: 上級としての義務と責任→技術向上指導育成、審判としての個性→人間性、コンプライアンスの厳守
  - ③PDCA計画
    - 自己分析のポイント: 自己の客観的評価、長所・短所を知る、映像の利用
    - PDCAサイクル: アドバイスをどのように利用するか、聞く耳をもつ→謙虚に、情報の取捨選択
- 【精神的要素】
- ・成就欲…成功への強い欲求、内的動機付け
  - ・決意…負けない決意
  - ・自信…今の自分を信じる
  - ・責任感…やり遂げる強い意志
  - ・感情のセルフコントロール…自分自身の感情をコントロールする
  - ・向上心…今回よりも次回

平育雄氏(日本協会)

ランクアップするためには割当をもらうことが大切。「怖い」と思うような分不相応な割当をもらって来て、公認からA級になってきたはず。分不相応を嫌がらずに、割当をする側の想いにこたえましょう。また、公認のときに敷居の高かったA級研修会を見学可能にしたことでA級を目指すたくさんの方が参加してきました。関東は良い環境ですが代々木でお会いする方が今では少ないように思います。また、逆の分不相応もダメです。そういった割当をもらってしまうことも許されません。そのための努力をしましょう。関東・東京ブロックでトップのA級を目指していますか。同じものを同じように判定できるように、A級の中で判定力の幅を狭くするようにしたい。現在新規AAIに求めるのはFIBAの要件に合うこと、即戦力の2点です。FIBAは条件に合う人材をできるだけ早く育成しようとしています。ベテランの方はその経験を充分にコートの上で発揮してください。

担当試合	期 日	平成26年8月24日(日)		成年女子	
	対戦カード	山梨県	VS	栃木県	U1
	相手審判	R:平育雄 氏 (本部) U2:村上恵美 氏 (神奈川県)			

ミーティング内容 主任 増淵泰久 氏 (栃木県)

1試合を通してファウルの判定数が少ない試合であったが、平氏と吹く良い機会でもあり、もっと積極的に前向きに判定をして表現してもよいものがあったのではないかと。ベンチの振る舞いに対し、みんなが求めていることをA級として対応できなければこの先は難しくなる。

全体の感想

今大会は関東・東京のA級研修を兼ねており、日本協会講師の方々から講義、講評をいただける機会であるため、毎年派遣していただけることに大変感謝しております。ありがとうございます。この大会で主審として役割を果たせるだけの力と信頼を得られるよう今後活動していく決意をあらたにし、そのために必要とされることを1つずつ日頃の審判活動から積み重ねていきたいと思っております。また、今大会では平氏との貴重な割当をいただくことができました。試合中に同じものを見ること、その時々にお話しをいただいたこと、判定や動きの1つ1つを感じられたことにとっても感激いたしました。また、藤垣氏から励ましのお言葉をいただき、コートの中であと1歩の勇気に変えていきたいと思っております。最後になりますが今大会では、高校女子関東大会に続き、栃木県の皆様に大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。